

平成30年度 佐賀県立高志館高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「高志深心」の理念を指針として訓育に努める。 「ステップアップ高志館」—更なる成長を目指す—</p> <p>① 学業の充実 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 生徒会活動・農業クラブ活動・部活動・ボランティア活動の活性化 ④ 信頼される開かれた学校の推進 ⑤ 専門教科の教育内容及び施設・設備の充実</p>	<p>○生徒が自らの可能性を信じ、更なる「成長」を目指せるよう、授業と部活動の充実 に努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを理解させ、さまざまな教育活動をととして社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○先が見えない時代にあっては、常に考え・課題を解決する能力が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、課題や責任を果たさせる中で自信を芽生えさせ、自立しようとする気持ちを育む。</p> <p>① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実 ② 学科プロジェクトの推進 ・園芸科学科 …… 環境保全型農業プロジェクト ・環境緑地科 …… スクールパーク化プロジェクト</p>

達成度
A: 達成できた
B: 概ね達成できた
C: 少し達成できなかった
D: 達成できなかった

3 目標・評価

① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○危機管理意識向上と安全対策	・安全管理の意識をもって生徒指導に当たっているか。 ・現場に即した緊急マニュアルを策定しているか。	・事件、事故の未然防止。 ・危機管理マニュアルを毎年見直す ・登下校時の緊急時の対応や報告、連絡の徹底。	・現状に即した危機管理マニュアルの改訂と伝達講習会の実施。 ・農業の取り扱いに関する研修会の導入。 ・避難経路の確認 ・不審者に対する対応。	B	・農業科職員対象の農業(毒・劇物)講習会を実施した。また、昨年度作成した農業管理マニュアルを各部門の必携として設置した。 ・防災避難訓練を11月に行ったが、避難経路については年度当初に伝達する必要がある。	・生徒が入りしな場所へ農業庫の移動が必要。 ・避難経路を年度当初に生徒に伝達する。 ・部室の管理を強化する
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員全体の働き方に関する意識改革を図っているか。 ・業務の効率化の推進、情報の共有化に努めたか。	・業務効率化 ・多忙間解消 ・効率的な業務遂行を工夫 ・各担当業務の情報共有を強化	・現行の制度をよく理解したうえで、業務をより効率的なものにできないか見極めていく。 ・タイムマネジメントを行うとともに、定時推進日の確実な実施を行う。 ・共有フォルダを利用し、様式、業務データの共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。また、SEI-net等の有効活用を努める。	A	・定時退勤推進日設定、運動部活動規約の設定、入試の職員完全下校時刻設定、さらに代休取得促進、冬休みの年休促進など呼びかけなどで働き方改革の意識改革を進められた。 ・共有フォルダを利用し、様式、業務データの共有化を多く行われた。出張・日報などSEI-netの有効活用を努めた。	・さらにタイムマネジメントの意識改革を進め、定時退勤や部活動の休業日実行、代休取得促進、長期休業中の年休取得などの確実な実行を図る。 ・さらに、共有フォルダを利用し、効率的な業務遂行を図る。
教育活動	○危機管理意識向上(生徒指導)	・校則や交通ルールを守れたか。 ・危機管理意識を持てたか。	・基本的生活習慣・態度の育成 ・規範意識の向上 ・交通安全教育の徹底 ・防犯、防災意識の向上	・全職員による登校指導(当番制)を行い、職員からの積極的な声かけにより、生徒とのコミュニケーションを図る。 ・学期に1回自転車点検をする。 ・生徒会役員による自転車盗難防止の取り組みを行う。 ・交通講話、防犯講話、薬物乱用防止講話を実施する。	B	・校則は全般的に守れたが、時代の流れと共に見直しが必要と感じる。また、交通事故が十数件出ており、昨年とほぼ変わらない。交通ルールの知識向上と交通マナーや安全に対する意識向上が更に必要となる。生徒会役員による自転車盗難防止の取り組みや各講話の実施で、防犯、防災の意識は高まった。	・現在の取り組みを今後も継続的に実施していく。そのなかで、生徒会を中心とした新たな取り組みを考え、基本的生活習慣の確立や危機管理意識の向上を目指していく。生徒自らが意識向上していく環境を作り、より安全に安心して学校生活を送れるようにしていきたい。
教育活動	●健康・体づくり	・基本的生活習慣を身につけさせることができたか。	・感染症予防の徹底 ・命の教育と性教育の充実 ・正しい食生活と健康管理指導の実施	・感染症流行期は、手洗い・うがい・教室換気・マスク着用などを徹底する。 ・エイズ講演会や性教育講演会を1回以上開催し、自己管理の大切さを学ばせるとともに、次世代を担う人材であることを自覚させる。 ・食に関する実態調査や食に関する授業等で、食生活に対する意識を向上させる。 ・保健便り、保健・健康に関する事項を生徒や保護者へ伝達し啓発を図る。	B	・インフルエンザが継続して発生したが、教室等の換気で学級閉鎖には至らなかった。 ・エイズ・性教育の講演会やがん教育のLHRを通して命の大切さや自己管理の重要性を身につけさせることができた。 ・生徒の健康教育や食育については、便りや農業・家庭科の授業を通して実施できた。	・感染流行期には、HRで事前にマスクの着用を呼びかける。 ・エイズや性教育などの講演会については、保健・理科・家庭科などの教科と連携して時期や内容の検討を行う。 ・定期健康診断の結果をもとに、PTA総会や面談等で今後も受診勧告をする。

② 学科プロジェクトの推進

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	学科プロジェクトは推進したか。	・生徒・教員がともに課題研究やプロジェクト学習に取り組み、生徒自らがPDCA(計画→実行→評価→改善)を実践できる能力を養う。	・各学科で1つ以上の研究テーマを掲げ取り組む。 ・生徒主体の研究活動の推進。	・農家や地域の身近な課題に目を向けた研究に取り組む。 ・プロジェクト学習に各学科全体で取り組む。 ・研究内容を客観的に評価するため、すべての研究成果について発表の場を設ける。 ・県連大会や各種コンテストに出場し、入賞を目指す。	B	・学科内で3年生全員発表の課題研究と、2月には学科代表チームのプロジェクト研究・課題研究の研究発表会を実施。 ・課題研究は、継続研究や新たな研究テーマなどが見られた。 ・プロジェクト研究は、学科一チームの発表となり意識の向上が必要である。	・プロジェクト研究は、学科全体で意識付けを行い、一チームだけの活動であっても、他の生徒へも活動状況を伝えたり、他職員からのアドバイスなども行えるような取り組みが必要。
	魅力ある専門教育を実施したか。	・生徒が自ら学べる実験実習等を導入する。また興味関心を85%以上にする。	・専門教科に興味を持つことで地域の問題に目を向けることができる。	・専門性を高めるため、各種専門分野から外部指導者を招喚し、直にプロの知識や技術に触れることで、生徒の興味関心を高めるとともに、実験・実習の充実をはかる。 ・学科間を超えた実験、実習による横割学習及び学科内での縦割学習など学科、学年を超えた魅力ある授業を展開する。	B	・専門教育の外部講師招聘は年間16回行い、各学科現場視察研修も取り入れている。その中で、専門分野への興味関心を高めている生徒もおり、進路では特に土木系就職が増えてきている。 ・縦割、横割学習は一定の部門ではあるが定着しつつある。	・生徒が身に付けた専門的知識や技術を、フィードバックする学習形態として、知識技術を定着させるための場を作り、更なる深化と発展が必要。(高志館グリーンツーリズムなどの企画)
	校外・地域へ専門高校の魅力発信できたか。	・各学科、地域を大切にしたい取り組みを企画し実践する。	・積極的にHP、学校だよりその他による情報発信を行う。	・3学科連携した生産物販売所の設置と模擬的な経営実践を月1回のペースで導入する。この取り組みにより、専門教育の魅力を感じさせるとともに、接客を通じて地域の問題に目を向けさせる。 ・学校だよりを年10回発行し、保護者、地域、各中学校へ情報を発信する。 ・各中学校に、一学期から学校紹介パネルを展示し、情報を発信する。	A	・生産物販売所をF科を中心として、年6回実施することができた。 ・学校便りを、カラー刷りで作成し、保護者や地域の人々に発信することができた。 ・学校紹介パネルを県下22校の中学校で展示することができた。 ・HPの高志館の日々の中で、生徒の取り組み状況を100コンテンツ以上発信することができた。	・生産物販売所の開催日時をHPやチラシ等で地域の人々にもっとアピールすることで、地域の人々に学校へ来てもらい生徒の活動を応援してもらおう。 ・学校紹介パネルの内容を考え、中学生の生徒・保護者にとって興味を持ってもらえるものにする。 ・生徒の取り組み状況を知ってもらったため、継続して「高志館の日々」を発信するとともに、HPを閲覧してもらえるような取り組みをする。

③ 学力を向上させる							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策			
教育活動	○教職員の資質向上	・毎時間、授業を大切に。 ・教育目標を明確にしなが授業に臨む。	・授業はチャイムからチャイムの真剣勝負 ・教師相互の授業研究による授業改善の推進	・公開授業を実施するとともに、校内外の授業参観や研修に1回以上参加する。 ・毎月、職員の目標を提示し、教職員の授業に対する意識を高める。	B	・日報の中で、職員の目標を提示することで、教職員の目標を達成する意識を高めることができた。 ・公開授業については、全職員が実施することができなかった。	・公開授業を実施されない職員が数人いたため、全員ができる方法を考える必要がある。
	●学力向上	生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力の養成 ・学習環境を整える。 ・基礎学力を向上させる。 ・基礎から応用へ発展的な学習に取り組む。	・学力向上ブテテストの実施、資格取得の推進 ・生徒の家庭における学習時間の定着 ・学習の場の整理整頓 ・校内学力向上委員会の有効利用	・時間を守る「チャイムtoチャイム」の授業実践と定着を図る。 ・学力向上ブテテストを年20回、課題テストを年3回実施と学年会を中心とした事後指導の徹底と補習の充実。 ・デジタル教材Classiを活用した自主学習指導と定着を図る。	B	・ブテテストは、各学年での取り組みを中心に、事後指導までの指導体制ができた。 ・ブテテストの実施方法について、各教科と話し合うことができた。 ・デジタル教材Classiについては、上手く活用することができなかった。	・新しいブテテストの実施方法で、新たに生徒の基礎学力向上を目指す。 ・学びの基礎診断テストや資格取得に取り組んだものをポートフォリオで整理する。 ・デジタル教材Classiの活用はせず、新しいブテテスト、学びの診断テストを活用した自主学習指導と定着を図る。

④ 希望進路実現100%の達成							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路実現	・生徒の進路希望は達成できたか。	・ライフプランと進路希望の早期決定 ・マナーの向上と進路意識の高揚 ・生徒の希望進路100%実現 ・国立大学や学科関連大学への進学希望者に対する進路指導の充実	・進路講演会・ガイダンス等による進路啓発 ・マナー講座・マナー検定への積極的取り組み ・全職員による企業訪問と面接指導の実施 ・入試制度の変革に伴う情報の収集と学年・学科・教科と連携した小論文・面接指導の充実	A	・3年生全員の進路先が決定し、13年連続して希望進路100%を達成できた。 ・就職状況が好転する中で、更なる職場開拓(特に県内企業)が可能であり、積極的な生徒の進路選択が望まれる。 ・国立大学合格者を出すことができなかったが、看護系への進学者が増した。 ・警察官をはじめ公務員希望者が増加したが、合格は困難であった。	・来年度も引き続き、進路啓発に向けた特別活動や3年時のマナー講座・マナー検定等を充実させ、生徒の希望進路実現のために積極的に取り組んでいく。 ・全職員による企業訪問を徹底していくとともに、面接指導等のスキルアップに努め、多様な生徒の希望に対応する。 ・入試の変化に対応する必要がある。早い段階からの指導体制が不可欠である。
	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進が図られたか。	・技を高める「資格取得」「インターンシップ」の推進 ・就農希望者を支援する「未来さが農業塾」の推進	・学科の専門性を生かした検定・資格取得のための指導(補習)や外部講師の実施。 ・就労意識を高めることを目的としたプロフェッショナルインターンシップの実施。 ・生徒の「未来さが農業塾」への入塾促進と具体的な就農計画の作成指導の充実。 ・ものづくりマイスター制度を利用した専門技術指導の実施。	B	・今年度の資格取得者数は、2月の調べで610名であり、昨年度より若干少なくなっているが、課外での補習など積極的に取り組んだ。 ・ものづくりマイスターによる専門技術指導は年間9回実施し、専門性を深めることができた。 ・就農希望者へは、7月の「就農支援説明会」を実施。「未来さが農業塾」への参加希望者が減少傾向である。	・農家出身生徒や就農希望生徒が少ない本校では、「未来さが農業塾」への参加希望が現3年生が抜けると0になるため、活動の魅力を多く発信するとともに、塾の募集基準の在り方を検討する時期になっている。

⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策			
教育活動	●心の教育	・生徒会・農業クラブ活動を通して地域に貢献しているか。 ・環境に配慮した取り組みがなされているか。 ・コミュニケーションは「挨拶から」を実践できているか。 ・生徒主体の取り組みができたか。	・自発的な地域社会貢献活動の推進。 ・「ごみゼロ運動」や「資源リサイクル」活動の推進。 ・さわやかな挨拶、相手を思いやる行動の実践。 ・組織における役割と1人1人が役割を担っていることを理解させる。	・JRC部、生徒会、農業クラブを中心に生徒へのボランティア活動の幹旋を行う。 ・ごみの分別や私物のごみの持ち帰りの呼びかけを行う。 ・販売会など日頃の学習の成果を試す場を活用して、さわやかな挨拶をすることや相手の立場になって考えることの重要性を実感させる。 ・教師主導ではなく、生徒の自発的な活動が行われるように支援する。	B	・九州北部豪雨ボランティアなどを通して地域社会へ貢献することができた。 ・行事ごとにごみの分別や持ち帰りの呼びかけはできたが、行事以外での呼びかけはできなかった。 ・販売会や行事では校外の方と接することが多かったが、爽やかな挨拶や対応はまだ不十分であった。 ・行事ごとに生徒自身で目標設定や役割分担をさせることで自発的な活動を促すことができた。	・様々なボランティア活動の幹旋を引き続き行うとともに、活動を通して地域貢献の重要性を理解させ、自己有用感の向上を目指す。 ・ごみの持ち帰りについては各クラスの正副担任と連携をして、生徒会・農業クラブ主体で呼びかけを行う機会を設ける。 ・さわやかな挨拶や対応をすることで相手がどのように感じるかを理解させ、挨拶や相手を思いやる行動ができるようになる。 ・計画的に行事運営の準備をし、余裕をもって運営ができるようになる。
	●いじめの問題への対応	・思春期の悩みの向き合い方を指導できたか。 ・いじめ問題への取り組みを2回以上を実施したか。 ・生徒の動向の変化を観察できたか。 ・いじめの問題について迅速に対応し、その悪化を防止し、真の解決に結びつけることができたか。	・いじめは人として絶対に許されないという意識を生徒一人一人に徹底する。また、早期発見、早期対応に努める。 ・教育相談との連携による生徒指導の充実	・教育相談を充実させるため、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーの活用、養護教諭等との連携を積極的に図る。また、専門家との連携に努める。 ・教育相談の職員と密に連携を取り、問題解決に向けて日頃より情報交換を行う。 ・職員からの積極的な声かけにより、生徒とのコミュニケーションを図る。また、それに伴い職員間の情報交換を行い、問題行動の早期発見に努める。	B	・いじめ問題への取り組みを2回行い、生徒からの情報はなかったが、担任の報告で生徒の聞き取りを行い、2件認知した。 ・2学期に入り、欠席が続く教室に入れなくなった生徒にSSWを活用し、不登校要因や今後の対応を相談。生徒とSSWの面談の中で約束事を決め、徐々に前向きになり、登校できるようになった。 ・生徒の様々な側面を知るため、教育相談委員会で生徒の情報を共有した。1件の生徒間のトラブルは、解決までには至らず、現在解決策を講じている。	・「仲間外れ」「無視」「陰口」を無くすこと。相手の立場になった言動ができる生徒を育ててくなくてはならない。 ・担任一人で問題を抱え込まぬよう学年主任・養護教諭との連携、情報を共有し、解決のための手立てをチームで考える。必要なら専門家の派遣も視野に入れる。 ・気になる生徒は声かけを行い、様子を観察。変化があれば関係職員・管理職を含め情報を共有。生徒を守る。 ・生徒には、いじめは相談すれば解決すると理解させる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○進路では、1年から継続的にマナー指導を行っており、進路実現において13年連続100%を達成することができた。来年度も、進路啓発企画、マナー指導を継続・充実させ、全職員による企業訪問などに積極的に取り組む。○アーチェリー部・ボクシング部では、全国インターハイにおいて、女子個人4位・男子個人8位入賞を果たし、教育長表彰を得た。また、年末の全日本ボクシング大会で女子2名が優勝し佐賀県スポーツ賞を得た。○教育振興会と協力して、福岡県の被災地に農業ボランティアを企画し、生徒の生き生きとした姿を保護者や被災地の方に見ていただくことができた。また、今年は文科省の学校安全総合支援事業を受け、防災教育の一環として岡山県にも災害ボランティアを派遣した。○学習については各学科、外部講師による取り組みなどで専門分野に関する意識が高まっている。環境緑地科では、造園土木関係の就職先が増えている。来年度も専門教育を生かす課題研究、プロジェクト活動を推進する。○タイムリーなHP更新、広く中学校へバナー掲示などできたが、入学志願者を増やすために高志館高校の専門教育を知っていただく(内容を含め)工夫をする。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目